

The Dancing Seminar

マルテン・シュパンベルグ 《踊る講義》

The Dancing Seminar (踊る講義) とは、2013年3月までニューヨーク近代美術館 (MOMA PS1) で行われた、マルテン・シュパンベルグによるパフォーマンス&セミナー。

このアートと知の均衡を図る試みが、今回東京大学駒場キャンパスで行われます。

講演 マルテン・シュパンベルグ

トークセッション マルテン・シュパンベルグ×小林康夫 (表象文化論) ×内野 儀 (表象文化論)

2013年10月12日 (土) 16時—19時

東京大学駒場キャンパス 21KOMCEE 101

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1

京王井の頭線渋谷駅(吉祥寺方面行各駅停車) — 駒場東大前駅下車

入場無料 予約不要 英語の講演ですが通訳がきます

マルテン・シュパンベルグ | Mårten Spångberg

スウェーデン、ストックホルム在住の振付家

実験的な試みや多様な形式・表現方法を取り入れた創作プロセスにより、振付という領域の拡張に取り組んでいる。1994年よりパフォーマーとして活動を始め、1999年からはソロからグループ作品、ウィリアム・フォーサイス/フランクフルトバレエ団などへの振付を含む作品発表を国内外で精力的に行なう。2011年にはグザヴィエ・ル・ロワとの共同作品をベネチアビエンナーレで公演、また、建築家トール・リンドストランドとのプロジェクト International Festivalなどを展開している。

若手の人材育成にも力を入れ、ストックホルム演劇大学でダンス理論および実技の講師、2008年、ストックホルムダンス大学振付科のMAプログラム(修士課程)ディレクターを歴任。その他、国際フェスティバルのディレクターやダンス関連の出版にも力をそそぐ。